



OECD視察団(看板右側3人)の現地調査

# 地域と歩む「かんほきょうの森」 OECDの視察団からも評価

今回は、「かんほきょうの森」と地域の最新の連携事例についてご紹介いたします。現在、東広島市や地域の企業・団体と連携して森づくりを進めています。その輪が広がっています。



昨年12月から、竹仁地域センター協力のもと、本連載とは別に「かんほきょうの森」を発行し、富田竹仁地区約400世帯へお届けしています。森林整備の様子やイベント情報のほか、「かんほきょうの森」を身近に感じてもらうよう、季節の自然現象や生き物を写真とともに紹介しています。「道の駅湖畔の里福富」の

近くにある東広島市福富支所でも配布していますので、近くに寄られた際はぜひ手に取ってみてください。



竹仁地域センターの「かんほきょうの森」ブース

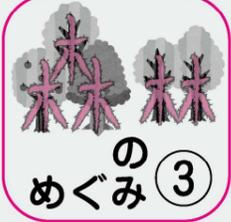
当社は、当協会の担当者や地域の方が立ち会い、森づくりの状況や地域とのつながりを紹介しました。「環境協や地域、行政がバランスよく森づくりを実施している」と、国際

2月5日には、経済協力開発機構(OECD)の視察団が、森林を活かした地域づくりの事例として、「かんほきょうの森」の現地調査を行いました。

また、竹仁地域センターに「かんほきょうの森」ブースを設置しました。活動紹介パネルの展示などに加え、約25年前に当協会が福富町の皆さんと制作した「ふくとみ環境マップ」を掲示し、以前からのつながりを認識していただいています。

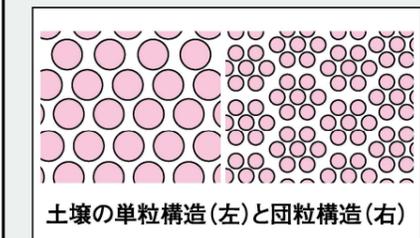
このからも地域の皆さんに親しみを感じてもらいながら、「かんほきょうの森」づくりが進むよう、丁寧に取り組んでまいります。(経営企画課 八島聡美)

## 水を貯める森林



森林には、「水源かん養機能」という働きがあります。森林が豊かであった時代に「川の上流に良い森林があると、洪水が起こりにくく、雨が少ない季節でも水がかれにくい」

## 水源かん養機能の重要性



物・微生物の働きによって小さな粒が団子状になり、「団粒構造」となり、水はけの良い

大粒の土と、水を貯める小粒の土の両方の性質を備えることができます。雨水が地表を流れることなく、速やかに地中にしみ込むことができ、森林内の地表は落ち葉で覆われ、湿っているため目詰まりが起きにくく、雨粒が樹木の葉に当たって速度が弱

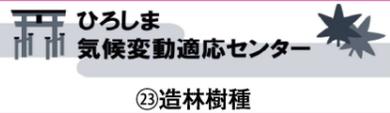
まとめると、①森林は隙間の多い土壌を厚く保持する、②雨水が地中にしみ込みやすいという2つの特徴を備えています。水源かん養林としては、低木が密生して、落葉が厚く溜まった高齢の自然林が望ましいといえます。



低木の多い自然林

前号で述べたように、急斜面のヒノキ林では、落葉層が流亡することがあり、対策が必要で、スギ林の場合、緩斜面に植えられ、枝葉が絡まり合い、流失しにくく、問題となることは少ないようです。(森林植物研究者 埴田宏)

## 期待の樹種コウヨウザン 気候変動の緩和と適応に効果



②造林樹種

コウヨウザンは、台湾や中国南部原産の針葉樹で、日本には江戸時代に渡来したと伝えられており、木材はスギやヒノキと同様の用途で使うことができます。樹形はモミの木、球果(写真下①)はマツボックリに似ており、種子はムササビなどの食料になります。本州以南の寺社などに植栽例があり、庄原市には林があります。

コウヨウザンの特徴 A: スギやヒノキに比べて成長が早く、温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>の吸収量が多いため、気候変動の緩和に貢献できます。また、日本より暖かい地域が原産のため、気温が上昇しても、成長には悪影響がないと考えられます。

特徴 B: 伐採後の切り株から芽が出て、そのまま成長するため、植替え作業が必要ありません。加えて、一般的な樹木は



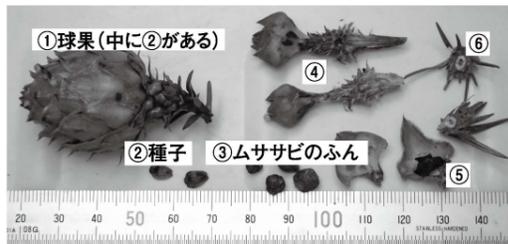
コウヨウザンの8年生樹

伐採後に切り株が枯れるため、新しく植えた苗木の根が十分張るまでの間、斜面の土砂を保持し、流出を防ぐ力が低下する時期が生じますが、コウヨウザンは切り株の根が生きたま新しい根が成長するため、土砂を保持する力が低下しにくくなります。そのため、気候変動により増加傾向である「短時間強雨」による土砂災害発生リスクの低減が期待できます。

特徴 C: スギ・ヒノキ花粉症の原因となる抗体は、コウヨウザンの花粉と反応しにくいとされており、スギ・ヒノキ花粉症の人でも症状が出るリスクは低いと考えられます。

広島県では、気候変動の緩和と適応、花粉症対策などさまざまな効果があるコウヨウザンを造林対象樹種に指定し、育林技術や材木利用マニュアルを作って導入の推進、普及啓発を行っています。

(ひろしま気候変動適応センター)



コウヨウザンの球果とムササビの食べかすなど